

2024(令和 6)年度
別科助産専攻入学者選抜
入試問題集

目次

- ・ 推薦型選抜 小論文問題 …… p.1
- ・ 一般選抜 小論文問題 …… p.2
- 専門科目問題 …… p.3～

令和 6 年度 推薦型選抜試験 小論文問題（60 分）

問題

母性看護における講義・演習・実習で考えた倫理的課題について具体例を挙げ、あなたの考えを 800 字以内で述べてください。

令和 6 年度 一般選抜試験 小論文問題（60 分）

問題

無痛分娩希望者が増加している背景と無痛分娩のメリット・デメリットについて説明し、あなたの考えを 800 字以内で述べてください。

令和7年度 一般選抜試験

専門科目(母性看護学・小児看護学)(60 分)

問1. 以下の政策が規定されている法律名を□の中から選び、記号で答えよ。

1. 妊娠の届出と母子健康手帳の交付
2. 出生の届出
3. 配偶者からの暴力を受けている女性や被害者の保護
4. 1947年にすべての児童が心身共に健やかに育成されることを目的に制定
5. 妊娠満12週以後の児の死産の届出
6. 児童に対する虐待の防止・予防・早期発見、虐待を受けた児童の保護や自立の支援
7. 育児や家族の介護を行う労働者の職業生活と家庭生活の両立に寄与
8. 不妊手術や人工妊娠中絶の実施や届出
9. 産前6週間、産後8週間の休業および時間外労働の制限
10. 妊産婦および新生児や未熟児への訪問指導などを定めたもの

A) 児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法） B) 戸籍法 C) 男女共同参画社会基本法
D) 少子化社会対策基本法 E) 次世代育成支援対策推進法 F) 死産の届け出に関する規程
G) 児童福祉法 H) 育児・介護休業法 I) 労働基準法 J) 母子保健法 K) 母体保護法
L) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）

問2. 次の日本における少子化対策の法律や政策を年代が古いもの順に並べよ。

1. 少子化社会対策基本法
2. 育児・介護休業法
3. 子ども・子育て関連3法
4. 健やか親子21（第2次）開始
5. エンゼルプラン

問3. リプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康）について、国際産婦人科連合によるリプロダクティブヘルスの基本要素は4つである。次のうち基本要素ではないもの一つを選び番号で答えよ。

1. 妊孕性を調整し、抑制できること（特に女性にとって）、これは、単に避妊だけでなく、ある夫婦にとっては、不妊の適切な治療を含む。
2. すべての女性にとって安全な妊娠と出産ができる。
3. すべての女性にとって安全な環境で育児ができる。
4. すべての新生児が健康な小児期を享受できる新生児の健全性をもつ。
5. 性感染症からの自由をもつ。

問 4. 閉経後骨粗鬆症の治療薬として使用しない薬剤を選び番号で答えよ。

1. 副甲状腺ホルモン製剤
2. カルシウム製剤
3. 選択的エストロゲン受容体モジュレーター
4. 副腎皮質ステロイド
5. エストロゲン製剤

問 5. 次の文章の特徴から該当する疾患名を下の□内から選び、記号で答えよ。

1. 15～39 歳のがん患者に占める罹患者の割合は 40 歳以降に比べ大きく、月経以外の不正性器出血や性交時の出血などの症状が見られるが、初期には症状がない場合もある。
2. 月経前 3～10 日目くらいの黄体期にイライラ・のぼせ・下腹部痛などの症状が現れ、特に症状が強い。
3. 近年 20 代の女性を中心に増加している性感染症であり、未治療で放置すると 10 年ほどで中枢神経が侵される。治療はペニシリン系が有効である。
4. 最も頻度が高い性感染症であり、男性では尿道炎を、女性では子宮頸管炎をおこすが、初期に症状は出にくく、感染後約 10%に子宮頸管炎から子宮内膜炎・付属機炎・骨盤腹膜炎になる。
5. 閉経後にエストロゲンが欠乏し、骨吸収が亢進することにより起こる。
6. HSV1 と HSV2 に分けられ、HSV 2 感染のほとんどが性行為により感染し、産道感染をおこすと新生児が重篤になることが多い。
7. 出産経験がない、遅い閉経、肥満など、エストロゲンの分泌に関するものが発生要因となり、好発年齢は 50 代である。
8. 男女の生殖器・泌尿器に感染し、男女ともに非淋菌性尿道炎を起こすことがある。治療は経口のメトロニダゾール系薬剤を用いる。
9. 子宮内腔以外の部位で子宮内膜組織に似た組織が存在し、疼痛や不妊などを引き起こす。
10. 真菌が外陰・膣に感染して生じ、局所の温度変化、エストロゲンの分泌亢進によるグリコーゲンの増加、抗菌薬の服用による菌交代現象などにより発生しやすくなる。

A. 更年期障害 B. 月経困難症 C. 乳がん D. 子宮筋腫 E. 子宮体がん F. 子宮頸がん G. 骨粗鬆症 H. 子宮内膜症 I. 月経前症候群 J. HIV 感染症 K. 性器ヘルペス L. 梅毒 M. クラミジア感染症 N. トリコモナス症 O. カンジダ症
--

問 6. 2022 年 4 月から保険の適用が開始された不妊治療の治療法として、次のうち誤っているものを選び番号で答えよ。

1. タイミング法
2. 人工授精
3. 顕微授精
4. 第三者の精子・卵子などを用いた生殖補助医療
5. 男性不妊の精巣内精子採取術 (TESE)

問 7. 子宮頸がんの予防について正しいものを選び記号で答えよ。

1. 子宮頸がん発がんのハイリスク HPV のうち、特に発がんリスクが高いのは 16、18 型である。
2. HPV 感染予防ワクチンの対象年齢は 15 歳～26 歳である。
3. 性交渉開始前にワクチンを接種していれば、定期的な子宮癌検診は必要ない。
4. 現在日本国内で使用できるワクチンは 2 価ワクチンのみである。

問 8. 妊娠中のホルモンの作用で誤っているものを選び番号で答えよ。

1. エストロゲンはインスリン抵抗性を低下させる。
2. プロゲステロンは全身の平滑筋の緊張を低下させる。
3. ヒト絨毛性ゴナドトロピンは子宮筋収縮を抑制させる。
4. ヒト胎盤性ラクトゲンは胎児の成長を促す。

問 9. 胎盤について正しいものを選び番号で答えよ。

1. 完成するのは、妊娠 15-16 週とされる。
2. 母体血と胎児血の直接交流がない。
3. グルコース、アミノ酸、ビタミンなどは胎児側から母体側へ移行する。
4. 胎盤から産生されるホルモンは、ヒト絨毛性ゴナドトロピン、エストロゲン、コルチゾールである。
5. 妊娠後期では、重さ約 500g、直径約 10cm、厚さは中央部で約 2cm である。

問 10. 36 週の初産婦の妊婦健康診査について正しいものを選び番号で答えよ。

1. 腹囲測定の際、妊婦に両膝を立て、腰を浮かせてもらい、妊婦の背中からメジャーを回し、その状態でメジャーを臍の上で交差させて計測する。
2. レオポルド触診法の第 1 段は、胎向（児背・小部分）、子宮の形状を触診する。
3. レオポルド触診法の第 3 段は、児頭下降部の種類（頭位かどうか）、移動性、骨盤侵入状況を触診する。
4. レオポルド触診法の第 4 段は、妊娠 32 週頃から評価可能である。
5. 第 2 頭位であるため、胎児心音は右腸骨と臍の中央あたりで聴取する。

問 11. 胎児心拍モニタリングについて誤っているものを選び番号で答えよ。

1. 胎児心拍数基線の正常値は、120～160bpm である。
2. 胎児心拍数基線細変動は、胎児心拍数基線における細かい心拍数の変化のことであり、細変動の低下がみられたら胎児の低酸素状態を疑う。
3. 一過性頻脈は、心拍数が 15 秒以上で 15bpm 以上一時的に増加することであり、胎児の健康状態は良好であると判断される。
4. 変動一過性徐脈の原因は、臍帯の圧迫による胎児循環不全である。
5. 遅発一過性徐脈の原因は、児頭の圧迫による頭蓋内圧亢進である。

問 12. 次のうち常位胎盤早期剥離と関連の強いものを選び番号で答えよ。

1. 妊娠高血圧症候群
2. 羊水過多
3. 凝固能の亢進
4. 胎児心拍異常
5. 警告出血

※以下の文章を読んで、次の問 13～15 の問題に答えよ。

A さん（35 歳、経産婦）。妊娠中の経過は順調であった。妊娠 39 週 5 日、午後 9 時 30 に陣痛が開始したため入院となった。午前 1 時 30 分、陣痛は 2～3 分間欠、発作は 40～50 秒。午前 2 時に破水、「便がしたい感じ。どうしてこんなに痛いのか？」と言いながら強くいきんでいる。内診所見は子宮口 8cm 開大、展退 90%、Station +1。

問 13. このときの助産師の対応で最も適切なものを選び番号で答えよ。

1. トイレにて排泄を促す。
2. 陣痛発作時に弛緩法を促す。
3. 短息呼吸の方法を指導する。
4. 分娩体位を整え努責を誘導する。

午前 2 時 25 分に子宮口が全開大となり、午前 2 時 58 分に第 2 前方後位で 3230 g の女児を娩出、アプガースコアは 1 分後 8 点、5 分後 10 点であった。午前 3 時 12 分に胎盤をシュルツェ式で娩出した。分娩第 3 期までの出血量は 380g、母児共に異常は見られなかった。

問 14. 分娩所要時間を答えよ。

問 15. この後の分娩後 2 時間までの経過と助産ケアで適切なものを選び番号で答えよ。

1. 早期母子接触を行うため、母親にパルスオキシメーターを装着した。
2. 尿意の訴えはなかったので、膀胱の充満はないと判断した。
3. 子宮底の高さが臍下 3 横指で、軟式テニスボール状であったので良好と判断した。
4. 脱肛が見られたので、疼痛緩和のため、局所の冷罨法を行った。
5. 分娩後 1 時間の出血量が 30g だったので、出血量は正常範囲であると判断した。

問 16. エジンバラ産後うつ病自己評価表について正しいものを選び番号で答えよ。

1. 20 項目の質問から構成される。
2. 産後うつとマタニティブルーズとの鑑別ができる。
3. 産後うつ病を診断するために用いる。
4. 対象は産後うつ病のハイリスク者である。
5. 9 点以上は産後うつ病のハイリスク者である。

問 17. 産褥血栓症について、1. リスク要因、2. 予防方法をそれぞれ2つずつ記載せよ。

1. リスク要因 () ()
2. 予防方法 () ()

問 18. 胎児循環・新生児循環の特徴について正しいものを選び番号で答えよ。

1. 胎盤で酸素化された血液は、1本の臍動脈を通して臍から胎児の腹腔内へ入る。
2. 動脈管により大動脈と肺動脈が連絡している。
3. 動脈管は生後数時間で機能的に閉鎖する。
4. 肺胞の拡張と肺呼吸により血中酸素濃度が上昇すると、肺組織の血管は弛緩し、肺血管抵抗は下がる。
5. 左心房圧より右心房圧が大きくなることで、圧力差により卵円孔の膜様弁が閉じ、生後数分で機能的に閉鎖する。

問 19. 次の新生児の呼吸障害の原因を□の中から選び記号で答えよ。

1. 無呼吸発作
2. 一過性多呼吸
3. 胎便吸引症候群
4. 呼吸窮迫症候群

A. 肺水の吸収遅延 B. 化学性の肺炎 C. 呼吸中枢の未熟性 D. 肺表面活性物質の欠乏

問 20. 新生児の評価について正しいものを選び番号で答えよ。

1. 先天性代謝異常スクリーニング検査は、タンデマス検査によるアミノ酸・有機酸・脂肪酸代謝異常症と内分泌疾患、糖代謝異常症を含む19疾患が対象である。
2. 新生児聴覚スクリーニング検査が生後2～4日に行われることが多いのは、出生直後に中耳に貯留していた液体が空気に置き換わる時期を考慮しているからである。
3. 出生直後の臍帯動脈血ガス分析結果の正常範囲は、pH 7.25～7.40である。
4. 新生児の行動評価の覚醒水準であるstate3は、刺激に対する感受性が高く、ケアに適している。
5. 新生児の原始反射は、半年までに消失する。

問 21. 次の助産師のケアについて適切なものを選び番号で答えよ。

1. 28 歳、妊娠 28 週 5 日の初産婦。腹部緊満感が 1 時間に 3 回あると電話があった。分娩予定日まで日にちがあるため自宅で様子を見るよう説明した。
2. 31 歳、妊娠 36 週 0 日の初産婦。外来受診で分娩への不安を訴えたため、分娩経過の説明はせず入院準備物品・育児用品についての説明をした。
3. 33 歳、妊娠 38 週 3 日の初産婦。自宅から病院まで車で 30 分くらい。陣痛は 1 時間に 4 回程度あり、トイレに行った際に何か流れたみたいであると電話があったため来院してもらうよう説明した。
4. 35 歳、経膈分娩後 1 日の初産婦。分娩所要時間 18 時間、出血量 250g。休息をとってもらうため母乳育児を開始せず児を新生児室であずかった。
5. 37 歳、経膈分娩後 2 日の経産婦。分娩所要時間 7 時間 30 分、出血量 300g。分娩想起を行い、今回の妊娠出産について話を聞き褥婦自身振り返りの機会となり、助産師もケアの振り返りを行った。

問 22. 乳児期の身体生理の発達について（ ）内に適切な語句を記入せよ。

1. 身長は 1 年で出生時の（ ）倍になる。
2. 体重は 1 年で出生時の（ ）倍になる。
3. 大泉門は（ ）頃までに閉鎖する。
4. 免疫グロブリン IgG は生後（ ）か月頃が最も少ない時期となる。
5. 乳歯は生後（ ）か月頃から生え始める。

問 23. A ちゃん（生後 4 か月、女兒）。在胎 38 週、身長 48cm、体重 2500 g で出生した。

4 か月健康診査で、身長 60cm、体重 6000 g であった。腹ばいになると腕で身体を支え、頭を持ち上げた。「がらがら」を両手で持ち、あやすと声を出して笑い、母親をまねてアーアーと声を出した。首を右に向けると左右の手足を屈曲させた。

A ちゃんの成長・発達評価で正しいものを選び番号で答えよ。

1. Kaup(カウプ)指数による評価は太り気味である。
2. 微細運動の発達遅滞が認められる。
3. 喃語の表出に遅滞が認められる。
4. 緊張性頸反射は消失している。
5. 定頸している。

問 24. 以下の小児の定期接種のワクチンのうち、生後 5 か月から開始するものを選び番号で答えよ。

1. Hib ワクチン
2. 小児用肺炎球菌ワクチン
3. 4 種混合ワクチン
4. BCG ワクチン
5. ロタウイルスワクチン